

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名 場面の様子をそうぞうしながら読もう 「ちいちゃんのかげおくり」

2 指導観

○ 本学級の児童の実態

読むことの学習において、本学級の児童（22名）は、これまでに、「三年とうげ」の学習を通して、登場人物の気持ちの変化を、叙述を基に想像して読む学習をしてきている。「三年とうげ」の単元指導後の到達度評価では、導入段階であらすじをとらえている児童は17人、展開段階で登場人物の気持ちを叙述を基に想像して読んでいる児童は11人、終末段階で深まった登場人物の気持ちをとらえている児童は11人であった。この評価から、低学年までに身に付けておかなければならないあらすじをとらえる力は十分とは言えない、叙述を基にして登場人物の気持ちを読む力は半数の児童にしか身に付いていないということが言える。展開段階の学習の様子からは、どの言葉に着目したらよいか分からない、登場人物の気持ちを想像することはできるが明確な根拠を見つけたり理由付けしたりすることが難しいなどの実態が明らかになった。また、同時期に行った国語アンケートからは、次のような結果が見られた。「物語の読みの授業は好きですか。」という問いに対し、「とても好き」「好き」が16人、「あまり好きではない」「好きではない」が6人で、全体的に物語の読みの学習が好きで多いが、好きでない児童も無視できない数である。

書く活動については、これまでに、「三年とうげ」の学習を通して、単元の導入段階で書く活動、展開段階で書く活動①②、終末段階で書く活動を経験している。単元指導後の到達度評価では、導入段階での書く活動では、あらすじを書けている児童は17人であった。展開段階の書く活動①では、自分の読みが書けている児童は22人、根拠にサイドラインを引いている児童は19人、理由付けまで書けている児童は6人であった。書く活動②では、本時で読み取った内容が書けている児童は12人、読み方まで書けている児童は10人、自分の考えの変容が書けている児童は18人であった。終末段階での書く活動では、深まった登場人物の気持ちが書けている児童は19人であった。この評価から、書く活動①では、根拠や理由付けを論理的に書く力が不十分であること、書く活動②では、深まった読みや、読み方を明確にとらえることができていることが分かった。また、国語アンケートでは、次のような結果が見られた。「話し合いの前に、自分の考えを書くことができますか。」という問いに対し、「よくできる」「できる」が15人、「あまりできない」「できない」が7人であることにに対し、『『今日の学習で』を書くことができますか。』という問いに対し、「よくできる」「できる」が20人、「あまりできない」「できない」が2人である。このことは、書く活動②より、書く活動①に難しさを感じている児童が多いことを示している。さらに、「物語の読みの授業は好きですか。」という問いに対し、「あまり好きではない」「好きではない」と回答した児童と、「話し合いの前に、自分の考えを書くことができますか。」・「『今日の学習で』を書くことができますか。」という問いに対し、「あまりできない」「できない」と回答した児童に一部重なりがあることも分かった。つまり、できるから好き、できないから好きではないといった、自分の読みを書く力と読むこと（文学的な文章）の学習への関心とに関係性が見られることも分かったのである。

以上のことから、本学級の児童は、読むことの学習において、自分の読みの根拠や理由付けを書く力に課題があり、その力を高めることで、学習意欲の向上も期待できることが明らかになった。

○ 本教材の価値

本教材は、幼い女の子「ちいちゃん」が、戦争によってお父さん、遊び場など次々と大切なものを失い、ある日空襲でお母さんやお兄ちゃんとはぐれ、日に日に衰弱するも家のあった場所でたった一人お母さんとお兄ちゃんの帰りを待ち続け、家族でした思い出のかげおくりをしながら命までも空に送ってしまう物語である。文章は、「家族そろって仲むつまじくかげおくりをする、幸せなちいちゃん」、「空襲でお母さんやお兄ちゃんとはぐれ、ひとりぼっちになるちいちゃん」、「お母さんとお兄ちゃんの帰りを信じてひたすら待ち続けるちいちゃん」、「熱にうかされ、夢うつつの中で、たった一人でかげおくりをするちいちゃん」、「何十年後、幸せそうに遊ぶお兄ちゃんやちいちゃんぐらいの子どもたち」と、一行空きによって分けられた五つの場面で構成されている。全体は、語り手がちいちゃんに寄り添って物語を進める形で描かれており、ちいちゃんの気持ちを読み取るのに適している。また、登場人物の言動について多様な表現が用いられており、人物の立場や様子、情景などが想像しやすくなっている。ちいちゃんの死を「小さな女の子の命が、空に消えました。」と表現していることは、戦争によって犠牲になったのはちいちゃんだけではないことを表しており、何十年後の情景は、もしちいちゃんやお兄ちゃんが生きていたらこんなに幸せだったろうと読者に想像させ、戦争を二度と繰り返してはならぬ、平和を守っていかなくてはならぬということを暗に訴えている。題名にある「ちいちゃんのかげおくり」は、第四の場面に出てきており、ちいちゃんにとっては家族に再び会えてうれしいかげおくりであるが、読者にとっては戦争で幼い命が奪われる悲しいかげおくりであると読み取ることができる。

このように、本教材は、児童が、主人公の気持ちを、叙述を基に想像し、読み深めることのできる教材である。

○ 書く活動の充実

第3学年の「読むこと」(文学的な文章)における書く活動の充実とは、登場人物の性格や気持ちの変化が分かる表現を選び、その言葉や文を比べたりつないだりして関連付けながら自分の読み・根拠・理由付けを書き込むことである【書く活動①】。また、登場人物の性格や気持ちの変化について深まった自分の読みを書きまとめることである【書く活動②】。

○ 論理的思考力を育成するための書く活動の内容

- (1) 導入段階で、読みのめあての答え(予見)を書く活動
 - ・あらすじ
 - ・「ちいちゃんのかげおくり」とはどんなかげおくりか
- (2) 展開段階で、自分の読み・根拠・理由付けを書く活動ー【書く活動①】と、深まった自分の読みを書きまとめる活動ー【書く活動②】
 - ・ひとりぼっちになったちいちゃんの気持ち
 - ・深くうなずくちいちゃんの気持ち
 - ・ちいちゃんのだんだん弱っていく様子と「きっと帰ってくるよ。」と言ったちいちゃんの気持ち
 - ・ふらふらする足をふみしめて立ち上がり、たった一つのかげぼうしを見つめながら数えるちいちゃんの気持ち
 - ・きらきら笑いながら走っていくちいちゃんの気持ち
 - ・「小さな女の子の命が、空にきえました。」から分かること

- ・何十年後の場面で作者が伝えたいこと
- (3) 終末段階で、読みのめあての答え（予見）の変容を書く活動
- ・読み深まったちいちゃんの気持ち
 - ・作者が伝えなかった戦争の悲惨さや平和への願い

○ 指導にあたって

指導にあたっては、次のような支援や手立てを取り入れていく。

導入段階では、まず、題名と冒頭（第一の場面）から、読みのめあてを生み出させる。その際、題名が「ちいちゃん『の』かげおくり」となっていることと、冒頭では、家族四人のかげおくりとお兄ちゃんと二人で遊んだかげおくりの2つが出てきていることをつないで、①かげおくりができなくなったが、ちいちゃんはどうするのだろう、②「ちいちゃんのかげおくり」とはどんなかげおくりなのかという読みのめあてを生み出させるようにする。次に、読みのめあてに沿って全文を読ませ、読みのめあての答え（予見）を書かせる。その際、挿絵と字数制限（行数制限）を与えてあらすじを書かせたり、根拠となる叙述にサイドラインを引かせた上で、ちいちゃんのかげおくりとはどんなかげおくりかを一言で書かせたりするための学習プリントを工夫する。そして、読みのめあての答えを話し合うと同時に、読み確かめていく計画を立てさせる。その際、ちいちゃんにとっては家族と会えてうれしいかげおくりだが、読者にとってはちいちゃんがたった一人で命を送った悲しいかげおくりであることをおさえ、その根拠となった叙述を中心文にしてちいちゃんの気持ちを読み確かめていく計画を立てるようにする。

展開段階では、まず、ひとりぼっちになったちいちゃんの気持ちを想像して予見を読み確かめさせる。その際、叙述を基に、ダッシュを読む読み方や似た言葉と比べて読む読み方などを使って、空襲の恐怖や、お母さんとはぐれた不安、お母さんらしい人が見えてちがった絶望感、たくさんの人たちの中で眠った恐怖や不安などを読み取らせるようにする。次に、はす向かいのうちのお婆さんと会い、焼け落ちてなくなった家を見て落胆し、家族の帰りを望んで深くうなずくちいちゃんの気持ちを想像し予見を読み確かめさせる。その際、叙述を基に、繰り返しを読む読み方を使ったり、動作化させたりすることで、声も出せないほど落胆しているが、家族の帰りを強く望んでいるちいちゃんの気持ちを読み取らせるようにする。次に、ちいちゃんの弱っていく体の様子と、「お母さんとお兄ちゃんはきっと帰ってくるよ。」と自分に言い聞かせながら信じて家族を待つちいちゃんの気持ちを想像し予見を読み確かめさせる。その際、叙述を基に、似た言葉と比べて読む読み方や文末表現を読む読み方を使って、「食べる」から「かじる」になった衰弱の様子や、「帰ってくるよ。」と自分に言い聞かせるように言った家族に会いたい気持ちや会えると信じる気持ちを読み取らせるようにする。次に、一人でかげおくりをして命を送ったちいちゃんの衰弱の様子と家族に会いたい気持ちを想像し予見を読み確かめさせる。その際、叙述を基に、場面を比べて読む読み方や言葉をつないで読む読み方を使って、暑いような寒いような気がしたりひどくのどがかわいていたり幻聴や幻覚が出てきたりするほど衰弱している様子や、そんな体の状態でも最後の力を振り絞ってかげおくりをするちいちゃんの家族に会いたい気持ちを読み取らせるようにする。次に、きらきらわらいながら走り出すちいちゃんの気持ちを想像し予見を読み確かめさせる。その際、叙述を基に、似た言葉と比べる読み方や前の場面とつないで読む読み方を使って、家族にやっと会えて幸せそうに笑い駆け出すちいちゃんの気持ちを読み取らせるようにする。次に、「小さな女の子の命が、空に消えました。」から予見を読み確かめさせる。その際、叙述を基に、似た言葉と比べて読む読み方を使って、戦争で命を落としたのはちいちゃんだけ

ではなかったことを読み取らせるようにする。最後に、何十年後の場面で作者が伝えたいことを考えさせる。その際、場面を比べて読む読み方を使ったり、五の場面があるのとなないのとの違いを考えたりして、お兄ちゃんやちいちゃんの幸せを奪った戦争の悲惨さや今の平和がずっと続いてほしいと願う作者の思いを考えさせるようにする。

終末段階では、まず、読みのまとめとして、題名「ちいちゃんのかげおくり」に戻り、読み確かめてきたことと物語の主題を話し合わせる。その際、各場面ごとに、ちいちゃんのどんな気持ちを想像して予見を読み確かめて、導入段階での読みがどれだけ深まったかを話し合わせるようにする。次に、読み確かめてきたことを書きまとめさせる。その際、ちいちゃんへの手紙という形で書かせることで、書きまとめやすくする。最後に、読み方のまとめとして、本単元で習得・活用した読み方をカード化し、次単元への意欲付けをする。

3 単元目標

- ひとりぼっちになり衰弱していくちいちゃんの様子やちいちゃんの家族への思いと、遊ぶ場所や家族、命までも奪う戦争の悲惨さと平和への願いを読み取ることができる。
- 中心文を基に、似た言葉と比べたり言葉ははずしたり、文末表現やダッシュ、繰り返しに着目したり、場面をつないだり比べたりして人物の様子や気持ちを読み取る読み方を身に付けることができる。
- ◎ 読み取ったちいちゃんの様子や気持ちを、自分の読みとして根拠・理由付けを含めて書き、話し合っって深まった読みを書きまとめることができる。

4 単元計画 全13時間

過程	時	主な学習活動と内容	指導上の留意点
導 入 読 み の め あ て	1	1 単元名から学習の構えをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ ちいちゃんは主人公で幼い女の子であること、題名はちいちゃん「の」かげおくりであることをおさえる。 ○ ちいちゃんが、いつ、どこで、誰と、何を送った、どんなかげおくりか確認し、題名とつないで読みのめあてを生み出させるようにする。
		2 題名から考えたことや疑問に思ったことを出し合う。	
		3 題名と冒頭をつないで読み、読みのめあてを生み出す。	
		<p>[読みのめあて]</p> <p>① かげおくりができなくなって、ちいちゃんはどうするのだろう。</p> <p>② 「ちいちゃんのかげおくり」とは、どんなかげおくりだろう。</p>	

予見	2	1 読みのめあてに沿って全文を読み通す。	○ 挿絵と字数制限を与え、予見を書きやすくする。
	3	2 予見を書きまとめる。	
学習計画	4	<p>[予見の方向]</p> <p>① 夏のはじめのある夜、空襲でにげていたちいちゃんは、お母さんとはぐれ、ひとりぼっちになった。次の日の朝、おばさんと家にもどると家は焼け落ちてなくなっていた。けれども、ちいちゃんは、その夜も、次の日の夜も、お母さんとお兄ちゃんを待っていた。次の日の朝、お父さんとお母さんの声が聞こえたので、一人で命のかげおくりをして、空色の花畑を家族のもとへわらいながら走っていった。(182字)</p> <p>② ちいちゃんのかげおくりは、ちいちゃんにとっては、家族に会えてうれしいかげおくり、わたしたち(読者)にとっては、ちいちゃんがひとりぼっちで死んでいく悲しいかげおくり。 【書く活動】</p>	
		3 予見を交流してクラスの予見を方向付け、根拠として出てきた叙述を中心文にして予見を読み確かめる計画を立てる。	○ ちいちゃんの目線か読者の目線かを整理することで、予見の違いを理解させ、その根拠を中心文とする。
展開	5	<p>[学習計画]</p> <p>①ひとりぼっちになったちいちゃんの気持ちを想像して予見を読み確かめる。</p> <p>②おばさんの言葉に深くうなずいたちいちゃんの気持ちを想像して予見を読み確かめる。</p> <p>③「お母ちゃんとお兄ちゃんは、きっと帰ってくるよ。」と言ったちいちゃんの気持ちを想像して予見を読み確かめる。</p> <p>④ふらふらする足をふみしめて立ち上がり、たった一つのかげぼうしを見つめながら数えだしたちいちゃんの気持ちを想像して予見を読み確かめる。</p> <p>⑤きらきらわらいながら走り出したちいちゃんの気持ちを想像して予見を読み確かめる。</p> <p>⑥「小さな女の子の命が、空に消えました」から、予見を読み確かめる。</p> <p>⑦何十年後の場面で作者が何を伝えたいのか考える。</p>	
		第二の場面	<p>ひとりぼっちになったちいちゃんの様子や気持ちを読み取って、家族に会いたいのか読みたしかめよう。</p> <p>1 本時のめあての答え(自分の読み)を書く。 〈中心文への問いかけ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜひとりぼっちになったのか ・ひとりぼっちとはどんな気持ちか <p>ひとりぼっちになったちいちゃんは、心細くてさびしい気持ち。 【書く活動①】</p>
①	2 本時のめあての答えを話し合う。	<p>(1) なぜひとりぼっちになったのか話し合う。</p> <p>(2) ひとりぼっちになったちいちゃんは、どんな気持ちか話し合う。</p>	○ 大勢の人がどんな人なのか想像させ、ちいちゃんのさびしさを読み取らせる。

		<p>3 読み確かめたことをもとに、深まった自分の読みを書きまとめる。</p>	
読み確かめ②	6 第三の場面前半	<p>ちいちゃんは、空襲の、強い風で火が回り、ほのうのうずが追いかけてくる中をにげて、とても怖かった。しかも、たくさんの人にぶつかったり追い抜かれたり足を踏まれたりどなられたりしてお母さんとはぐれ、とても不安になった。必死で「お母ちゃん、お母ちゃん。」とさけんでいるとおじさんに助けてもらったが、知らない人をお母さんで見間違っ て、また一人になり、もう望みがなくなった。けがしてうめく人や家族連れや怖い人などたくさんの知らない人たちの中で、こわくさびしく不安なままねむった。それは、ダッシュの部分や「たくさんの人たち」を想像して読んだりして分かった。 【書く活動②】</p>	
	<p>1 本時のめあての答え（自分の読み）を書く。 〈中心文への問いかけ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 何にうなずいたのか ・ なぜ「深く」うなずいたのか ・ なぜ二回もうなずいたのか 		
	<p>2 本時のめあての答えを話し合う。 (1) ちいちゃんは、どんな気持ちでうなずいたのか話し合う。 (2) ちいちゃんが、二回うなずいたわけを話し合う。</p> <p>3 読み確かめたことをもとに、深まった自分の読みを書きまとめる。</p>	<p>○ 情景や「しゃがんで」「なみだをこらえて」とつないで、ちいちゃんの落胆した気持ちを読み取らせる。 ○ 「おうちのどこ」や「深くうなずきました」のくり返しとつないで、家族の帰りを強く望むちいちゃんの気持ちを読み取らせる。</p>	
読み確かめ③	7 第三の場面	<p>深くうなずいたちいちゃんは、お母ちゃんとお兄ちゃんに帰ってきてほしい気持ち。 【書く活動①】</p>	
	<p>1 本時のめあての答え（自分の読み）を書く。 〈中心文への問いかけ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なぜ「きっと帰ってくるよ。」と言ったのか ・ 「よ。」と誰に向かって言っているのか 		
		<p>おばさんと家に戻ったちいちゃんは、どこがうちなのかわからないほどすっかりかわった町の様子や焼け落ちてなくなった家を見て、とてもショックを受けた。しかも、家に戻ってもお母さんとお兄ちゃんに会えなくてがっかりした。落ち込んでしゃがんでいると、おばちゃんがお母ちゃんたちがここに帰ってくるかたずねたので、帰ってきてほしいから深くうなずいた。そして、おばちゃんがもう言うてしまうと言った後も、一人になるのにお母ちゃんやお兄ちゃんに会いたい気持ちを強め、また深くうなずいた。それは、繰り返しを読んだり、前の場面とつないで読んだりして分かった。 【書く活動②】</p>	

後半	<p>・ぜったい帰ってくると信じていたから「きっと」と言った。</p> <p>・自分に言い聞かせるように言った。 【書く活動①】</p> <p>2 本時のめあての答えを話し合う。</p> <p>(1) ちいちゃんは、どんな気持ちで「きっと帰ってくるよ。」と言ったのか話し合う。</p> <p>(2) ちいちゃんの体が弱っていく様子を話し合う。</p> <p>3 読み確かめたことをもとに、深まった自分の読みを書きまとめる。</p> <p>ちいちゃんは、家がなくなって、家族にも会えず、またひとりぼっちになったから、ショックを受け落ち込んで、さびしくて不安。だけど、お母さんとお兄ちゃんは絶対に帰ってくると信じて待っている。それで、ほしいいを少ししか食べずにさびしいぼうくうごうの中でねむった。次の日は、ほしいいを少しかじるだけしかできないくらい、体が弱っていた。だけど、おばさんの言葉に深くうなずいたとき家族が帰ってくると信じていた気持ちを捨てずに、「きっと帰ってくるよ。」と自分に言い聞かせて家族に会いたい気持ちや会えると信じる気持ちを強くしていった。それは、「きっと」をはずして読んだり、文末の「よ。」に立ち止まって考えたりして分かった。 【書く活動②】</p>
読み確かめ④	<p>8 一人でかげおくりを始めたちいちゃんの様子や気持ちを読み取って、家族に会いたいか読みたしかめよう。</p> <p>1 本時のめあての答え（自分の読み）を書く。</p> <p>〈中心文への問いかけ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜふらふらしているのか ・ふみしめるとはどんな感じか ・どんな気持ちで数え始めたのか <p>○ 「暑いような寒いような」「ひどくのどがかわいて」や前の場面の「少し食べました。」「少しかじりました。」とつないで、ちいちゃんの衰弱ぶりを読み取らせる。</p> <p>・体が弱っているからふらふらした。</p> <p>・力をこめている感じ。・かげおくりをすれば会えると思って 【書く活動①】</p> <p>2 本時のめあての答えを話し合う。</p> <p>(1) ちいちゃんはなぜふらふらしているのか、体の弱っている様子を話し合う。</p> <p>(2) ふみしめるとはどんな感じか話し合う。</p> <p>(3) なぜ体が弱っているのかかげおくりをしたのか話し合う。</p> <p>3 読み確かめたことをもとに、深まった自分の読みを書きまとめる。</p> <p>○ 「ふみしめる」から強い力をこめて立っている様子を読み取らせる。</p> <p>○ 前の場面の「きっと帰ってくるよ。」や「深くうなずきました。」とつないで、家族に会えると信じる気持ちを読み取らせる。家族四人でした幸せなかげおくりの場面と比べることで、ちいちゃんの心に強く残っている思い出であり、かげおくりをすれば家族に会えると信じるちいちゃんのことを読み取らせる。</p>
本時	

		<p>ちいちゃんは、ほしいいをあまり食べられなかったし、暑いような寒いような気がしてかぜをひいているみたいで、ひどくのどがかわいていたから、足がふらふらしている。そして、お父さんやお母さんの声が聞こえたので、かげおくりをすれば家族に会えると思って、夢中で最後の力を振り絞って立ち上がり、数を数え始めた。それは、体が弱っていく様子が分かる言葉をつないで読んだり、ひとりぼっちで家族の帰りを辛抱強く待っていた前の場面とつないで読んだりして分かった。【書く活動②】</p>
読み確かめ⑤	9 第 四 の 場 面 後 半 ①	<p>きらきらわらいながら走りだしたちいちゃんの様子や気持ちを読み取って、家族に会えてうれしいか読みたしかめよう。</p> <p>1 本時のめあての答え（自分の読み）を書く。 〈中心文への問いかけ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なぜきらきらわらいだしたのか ・ なぜわらいながら走り出したのか <p>きらきらわらいながら走りだしたちいちゃんは、やっと家族に会えてとてもうれしい気持ち。【書く活動①】</p> <p>2 本時のめあての答えを話し合う。</p> <p>(1) ちいちゃんはなぜきらきらわらいだしたのか話し合う。</p> <p>(2) ちいちゃんはなぜわらいながら走り出したのか話し合う。</p> <p>3 読み確かめたことをもとに、深まった自分の読みを書きまとめる。</p> <p>○ 「きらきら」という表現と「くすくす」や「にやにや」などと比べることで、ちいちゃんの家族にやっと会えた幸せな気持ちを読み取らせる。</p> <p>○ 青い空と一面の花畑の情景と「わらいながら走り出し」をつないで状況を想像させることで、早く家族のもとへ行きたいという気持ちを読み取らせる。</p> <p>ちいちゃんは、命を空に送って、天国へ行った。天国は、空襲で怖い空とは違って、一面の空色でどこまでも続く花畑があり、美しい。ちいちゃんは、「おなかがすいて軽くなったのかしら。」と言って、自分が死んだことには気付いていない。そして、お父さんとお母さんとお兄ちゃんがわらいながら歩いてきたので、やっと会えたとうれしかった。「こんな所にいたからこなかったのね。」と、みんなも死んだのかもしれないという疑いも抱かず、きらきらと幸せそうに輝く笑顔で走りだした。それは、似た言葉と比べて読んだり、前の場面とつないで読んだりして分かった。【書く活動②】</p>
読み確かめ⑥	1 0 第 四 の 場	<p>「小さな女の子の命が空に消えました。」から、わたしたちにとって、ちいちゃんがかわいそうか読み確かめよう。</p> <p>1 本時のめあての答え（自分の読み）を書く。 〈中心文への問いかけ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なぜちいちゃんではなく小さな女の子か ・ なぜ「死んだ」ではなく「空に消えた」か <p>・ ほかにもいたから。 ・ かげおくりをして死んだから。【書く活動①】</p>

	面 後 半 ②	<p>2 本時のめあての答えを話し合う。</p> <p>(1) なぜちいちゃんではなく小さな女の子か話し合う。</p> <p>(2) なぜ死んだではなく空に消えましたなのか話し合う。</p> <p>3 読み確かめたことをもとに、深まった自分の読みを書きまとめる。</p>	<p>○ 「小さな女の子」を「ちいちゃん」に置き換えて音読させ、ほかの小さな女の子のことも表していることを読み取らせる。</p> <p>○ 「空に消えました」を「死にました」に置き換えて音読させ、印象の違いを読み取らせる。</p>
読 み 確 か め ⑦	1 1 第 五 の 場 面	<p>1 作者は、何十年後の場面で何を伝えたかったのか考えよう。</p>	
		<p>1 本時のめあての答え（自分の読み）を書く。</p> <p>〈中心文への問いかけ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ きらきは、ちいちゃんのきらきと同じか ・ なぜお兄ちゃんやちいちゃんぐらいの子どもたちの様子か 	
		<p>あまんきみこさんは、お兄ちゃんやちいちゃんたちの命をうばった戦争を二度と繰り返してほしくない願っているから、何十年後の場面を書いた。 【書く活動①】</p>	
		<p>2 本時のめあての答えを話し合う。</p> <p>(1) ちいちゃんのきらきと何十年後の子どもたちのきらきの共通点と相違点を話し合う。</p> <p>(2) 五の場面で何を伝えたいのか話し合う。</p> <p>3 読み確かめたことをもとに、深まった自分の読みを書きまとめる。</p>	<p>○ 「家がいっぱい」や「公園」「きらきら」をつないで、戦争が終わり、平和な世の中になったことをとらえさせる。</p> <p>○ 「きらきら」は幸せな表情を表していることは同じだが、今の子どもたちはずっと幸せなのに対して、ち</p>
		<p>何十年後、町には前よりもいっぱい家が建ち、平和な世の中になった。ちいちゃんは、たった一人で命を空に送った。それでも、最期に家族に会えて幸せそうにきらきら笑った。その哀しい場所は、小さな公園となり、子どもたちが安心して遊べる場所となっている。空襲もなく、美しい青い空の下、お兄ちゃんやちいちゃんぐらいの子どもたちが、きらきら幸せそうに笑い声を上げて遊んでいる。もし、お兄ちゃんやちいちゃんが生きていたら、あの時代に戦争がなかったら、こんなふうに幸せに暮らしていたはずだ。逆に、もし今、戦争が起きたら、私達の幸せもとたんに奪われてしまう。今の幸せは当たり前ではない。戦争は二度と繰り返してはならないし、いつまでも平和を守っていかなくてはならない。それは、前の場面と比べて読んで分かった。 【書く活動②】</p>	

終 末 読みの まとめ	1	1 題名が「ちいちゃんのかげおくり」になっている意味を話し合う。	○ 各場面のちいちゃんの気持ちを、足跡の掲示をもとに再度確認し、学習を振り返りながら手紙を書けるようにする。
	2	2 読み確かめてきたちいちゃんの気持ちを、ちいちゃんへの手紙として書きまとめる。	
読み方 の ま と め	<p>ちいちゃんへ　ちいちゃんがひとりぼっちになったとき、とても怖くて不安で望みを持たず、さびしかったでしょう。私も人とはぐれてしまったときすごく不安で泣き出したくなるけど、今は絶対にはぐれても会えるから、ちいちゃんのさびしさは計りしれません。</p> <p>はす向かいのおばさんと会って家に行ったときも、すっかりかわった町の様子や焼け落ちた家の様子を見てさぞ傷ついたでしょう。家族みんなの思い出の家だし、家族が帰ってくるときに目印になったはずです。こんなに絶望的で、体も弱っていくのに、ちいちゃんは家族に会いたい気持ちと会えると信じる気持ちは捨てませんでしたね。私だったら、もしかしたら一人で残るのが不安でおばさんについて行ったかもしれません。または、何も食べずにすぐ死んでしまったかもしれません。</p> <p>今にも死にそうになった状態でも、ちいちゃんはあきらめませんでしたね。ふらふらの足でもふみしめてかげおくりをするなんて、よほど家族に会いたかったのでしょう。でも、お父さんやお母さんやお兄ちゃんの声は幻聴で、もう意識がもうろうとしていたのだと思います。最期に、空に四人のかげぼうしが幻覚で見えたときは、涙が出そうになりました。体がすうっと透き通って軽くなったときは、死んでかわいそうと思ったけれど、ちいちゃんが苦しくなくなってよかったと思いました。それに、自分が死んだことにも気付いてなくて、家族とやっと会えたから、今は天国で幸せに暮らしているんだと思います。でも、こんなふうに命を奪われた幼い子がたくさんいたのですね。とても残念で悔しいです。</p> <p>ちいちゃんが死んでしまっって何十年後は、平和な世界になっています。ちいちゃんも、生きていれば、また、ちいちゃんが生きていた時代に戦争がなければ、怖いさびしい思いもなくてすんだのでしょうね。私達は、二度と戦争を繰り返さず、いまの平和をずっと守っていこうと思います。</p> <p style="text-align: right;">○○より 【書く活動】</p>		
	1	2 読み方のまとめをする。	※読み方の宝としてカード化して掲示
3	・似た言葉とくらべて読む・文末表現を読む・場面をつないで読む・場面をくらべて読む ・ダッシュを読む・繰り返しを読む		

5 本時 平成 21 年 10 月 27 日 (火)

6 本時の目標 (8/13)

- たった一人でかげおくりを始めたちいちゃんの様子から、体が弱っていくにもかかわらず、最後の力をふりしぼることができるほど家族に会いたい気持ちを読み取ることができる。
- 中心文を基に、前の場面とつないで、人物の気持ちを読み取る読み方を身に付けることができる。
- ◎ 一人でかげおくりを始めたちいちゃんの気持ちを、自分の読みとして根拠・理由付けを含めて書き、話し合っって深まった読みを書きまとめることができる。

7 本時指導の考え方

これまでに、本学級の児童は、第三の場面までのちいちゃんの家族に会いたい気持ちを、叙述を基に読み取ってきている。その中で、似た言葉と比べて読んだり、場面をつないで読んだり、文末表現やダッシュ、繰り返しを読んだりする読み方を習得・活用してきている。

本時の導入にあたっては、前時までの学習を振り返り、ちいちゃんは、体が衰弱しているにもかかわらず、家族に会えると強く信じていることを確認する。そして、本時でも、家族に会いたい気持ちがあるかどうか、中心文「ちいちゃんは、ふらふらする足をふみしめて立ち上がり、たった一つのかげぼうしを見つめながら、数えだしました。」に問いかけをつくってちいちゃんの気持ちを読み確かめていくという本時のめあてをつかませる。

本時の展開にあたっては、まず、中心文に問いかけ（「ア なぜふらふらしているのか」「イ ふみしめるとはどんな感じか」「ウ なぜかげおくりをしているのか」）をつくらせる。問いかけの答えを書く観点として、「ア なぜふらふらしているのか」は他の叙述とつなぐこと、「イ ふみしめるとはどんな感じか」は自分で考えて書くことを指示する。次に、問いかけア・イの答えを話し合わせる。その際、期間指導において児童の読み・根拠・理由付けを把握しておき、読み誤り、浅い読み、深い読みの順で意図的指名をすることで話し合いを展開していく。アの話し合いでは、「暑いような寒いような」や「ひどくのがかわれて」、前の場面の「少しかじりました。」「少し食べました。」とつなぎ、ちいちゃんの体が弱っていることを読み取らせる。イの話し合いでは、強い力を込めていることを読み取らせる。その後、アとイから、体が弱っているのにどうしてそんなに強い力が出せたのかを考えさせ、問いかけウの答えを書かせる。その際、「ウ なぜかげおくりをしているのか」は、アとイの答えをつないで書くことを指示する。そして、前の場面のちいちゃんの気持ちとつなぐことで、家族に会いたい強い気持ちから最後の力をふりしぼったことを想像させる。さらに、ウの話し合いで、冒頭の家族四人でした幸せなかげおくりの場面とつなぐことで、ちいちゃんが幸せな思い出の中で、かげおくりをすれば家族に会えると強く信じ、たった一人で命のかげおくりをしていることを読み取らせる。

本時の終末にあたっては、読みのまとめとして、ちいちゃんは弱っているが、最後の力をふりしぼって家族に会えると信じてかげおくりをしたこと、読み方のまとめとして、前の場面とつないで読む読み方を確認し、「今日の学習で」を書かせる。書く観点として、今日の学習で深まった読みと、使った読み方を書くよう指示する。その際、板書で、ちいちゃんの気持ちについて深まった読みと使った読み方を、思考の流れに沿って分かりやすく示す。

○ 論理的思考力を育成するための書く活動

- ① ふらふらする足をふみしめて立ち上がり、たった一つのかげぼうしを見つめながら数えるちいちゃんの気持ちを、自分の読みとして根拠・理由付けを含めて書く。
- ② ふらふらする足をふみしめて立ち上がり、たった一つのかげぼうしを見つめながら数えるちいちゃんの気持ちについて、話し合って深まった読みを書きまとめる。

検証の視点

- 書く活動①・②の観点、話し合いにおける問い返し、学習プリントは有効であったか。

8 本時の展開

	学習活動と内容	指導上の留意点
導 入	1 本時のめあてを確かめる。 〈学習のめあて〉	○ 前時の学習と学習計画を振り返らせて、本時のめあてをつかませる。
展 開	一人でかげおくりを始めたちいちゃんの様子や気持ちを読み取って、家族に会いたいか読み確かめよう。	
	2 本時のめあての答え（自分の読み）を書く。 (1) 本時の場面を音読する。 (2) 中心文に問いかけをつくる。 ア なぜふらふらしているのかな イ ふみしめるってどんな感じかな ウ なぜかげおくりをしているのかな (3) 問いかけア・イの答えを書く。【書く活動①】	○ なぜふらふらしているのかは、関係のある叙述とつないで書かせる。 ○ 「ふみしめる」がどんな感じかは、自分で考えて書かせる。
	ア 体が弱っているからふらふらしている。 イ ふみしめるとは、強い力をこめる感じ。 【書く活動①】	
	3 問いかけの答えを話し合う。 (1) ちいちゃんはなぜふらふらしているのか、体の弱っている様子を話し合う。 × 寝起きだから ○ 体が弱っているから (2) ふみしめるとはどんな感じが話し合う。 ○ 強い力をこめている感じ ◎ 最後の力をふりしぼっている	○ 「暑いような寒いような」「ひどくのどがかわいて」や前の場面の「少し食べました。」「少しかじりました。」とつないで、ちいちゃんの衰弱ぶりを読み取らせる。 ○ 「ふみしめる」の「しめる」から強い力をこめて立つ様子を読み取らせる。
4 本時のめあての答えを書く。【書く活動①】		
終 末	ウ かげおくりをすれば、会えると思っている。 【書く活動①】	
	(3) なぜ体が弱っているのにかげおくりをしたのか話し合う。 ○ 家族との楽しい思い出だから ○ 家族に会いたいから ◎ かげおくりをすれば会えると信じているから	○ 前の場面の「きっと帰ってくるよ。」や「深くうなずきました。」とつないで、家族に会いたい気持ち、家族に会えると信じる気持ちを読み取らせる。 ○ 冒頭の家族四人でした幸せなかげおくりの場面と比べることで、かげおくりをすれば家族に会えると思っているちいちゃんの気持ちを読み取らせる。
	4 読み確かめたことをもとに、深まった自分の読みを書きまとめる。 〈学習のまとめ〉	
	ちいちゃんは、ほしいいをあまり食べられなかったし、暑いような寒いような気がしてかぜをひいているみたいで、ひどくのどがかわいていたから、とても体が弱っている。その上、家族四人でかげおくりをしたときの幻聴や、本当に四人のかげぼうしの幻覚があるなど、もう死ぬ間際の弱り具合だからふらふらしていた。それでも、最後の力を振り絞って、家族に会いたいがためにふみしめて立ち上がり、数を数えた。そして、十数え終わった後力尽き、体がすうっとすきとおって、空に吸い込まれていった。それは、ちいちゃんがたった一人でした、命のかげおくりだった。それは、前の場面とつないで読んだり、様子が分かる言葉とつないで読んだりして分かった。【書く活動②】	